

研究業績説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号		学部・研究科等名	教育学研究科
------	----	-----	------	-----------	--	----------	--------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究証跡の選定の判断基準【400字以内】

人間・社会・自然の諸科学を総合的に深化させ、権威ある賞を受賞したり、国内外の研究者や批評家に多大な影響を与えたと認められる研究業績をあげることができ、それらの研究が教育学研究科で実施されることにより、真の意味での学際的な教育研究活動の場が創出され、そこに学ぶ教員志望者や学校教諭は次世代に伝えるべき最先端の知や芸術に触れる機会を得ている。

2. 選定した研究業績

業績番号	編目番号	編目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究業績【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等）【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	選定して認定した研究業績番号	共同利用等
1	4201	教育学	公教育の構想指針原理に基づく実践理論の体系化研究：公教育の構想指針原理は「各人の（自由）および社会における（自由の相互承認）の（教養＝力能）を通じた実質化」であるとし、この原理を実質化するための諸理論を、学びのあり方から行政のあり方に至るまで全方位的に提示する研究を続けている。	リヒテルズ直子・苅野一徳『公教育をイチから考えよう』日本評論社、2016年。多賀一郎・苅野一徳『問い続ける教師－教育の哲学×教師の哲学』学事出版、2017年。苅野一徳・菊池省三『学校は、何をするとどこか？』中村堂、2018年。（苅野）		SS	本研究の成果は、経済産業省「『未来の教室』とEdTech研究会」、兵庫県尼崎市「学びと育ち研究所」、熊本県「熊本の学び」総合構想会議等、多くの行政や自治体において参照されている。また、熊本日日新聞朝刊「くまにも論壇」での連載、西日本新聞朝刊「教育哲学への道」での連載のほか、多数の新聞等メディアにおいても報道されている。また、本研究の成果を一つの土台とした、幼稚園と義務教育学校からなる「陸井沢風越学園」の設立準備現在進行中であり（設立者も共同発起人として参画）、2020年に開校予定である。	なし	なし
2	49010	病態生化学	アルギニン-NO代謝とミトコンドリア機能に関する研究：アルギニンはタンパク質を構成する20種類のアミノ酸の一つである。この研究により、炎症病態などに重要な役割を果たす一酸化窒素（NO）の産生調節や、臓器の線維化などにおけるアルギニン代謝系の新しい役割が明らかにされた。また、それらの病態を含む種々の病態におけるミトコンドリアの機能の解析と、新奇のミトコンドリア分子の同定、解析を行った。	1. M. Yugami, H. Odagiri, M. Endo, H. Tsutsuki, S. Fujii, T. Kadomatsu, T. Masuda, K. Miyata, K. Terada, H. Tanoue, H. Ito, J. Morinaga, H. Horiguchi, T. Sugizaki, T. Akaike, I. Gotoh, T. Takai, T. Sawa, H. Mizuta & Y. Oike. Mice Deficient in Angiopoietin-like Protein 2 (Angptl2) Gene Show Increased Susceptibility to Bacterial Infection Due to Attenuated Macrophage Activity. J. Biol. Chem. 291: 18843-18852 (2016) 2. N. Nishimura, I. Gotoh, Y. Oike & M. Yano. TMEM65 is a mitochondrial inner-membrane protein. PeerJ. 2014 Apr 349 doi: 10.7717/3. Y. Miyazaki, K. Kaikita, M. Endo, E. Horio, M. Miura, K. Tsujita, S. Hokimoto, M. Yamamoto, T. Iwakaki, I. Gotoh, H. Ogawa & Y. Oike. C/EBP homologous protein deficiency attenuates myocardial reperfusion injury by inhibiting myocardial apoptosis and inflammation. Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol., 31: 1124-1132 (2011)（後藤）	SS	本研究の一連の論文の英文国際誌における引用回数は、Scopusによると1626回(172回)、1727年443回、128年378回、129年400回、130年267回である。右にあげた1論文は、これまでに5回、2の論文は、5回、3の論文は、82回英文国際誌に既に引用されており、この領域で高く評価されている。	なし	なし	
3	3001	芸術学	國枝春恵作曲 弦楽器・打楽器、尺八のための音楽「花を111」 Music for Strings, Percussion and Shakuhachi「Floral Tributes 111」 本研究では、西洋音楽の弦楽器、邦楽の尺八、民族音楽の打楽器という異文化の芸術を、同一の時間軸上に共鳴させるという実践を行った。20世紀歴史的な作品、武満徹「ソナタ」を「ステップ」初演50周年、2017年11月17日に東京オペラシティで成果発表がなされ、隠れキリシタン「歌オラシヨ」舞臺「陸王」引用等の古今東西の音楽が、豊饒で複雑な響きとして具現化された。2018年5月26日ISCM-WMD2018北京大会に入選し、再演された。	1) 國枝春恵作曲 ソプラノ・ハーブ・オーケストラのための「地上の平和」「Peace on Earth」for Soprano, Harp and Orchestra 平成17年 NHK交響楽団Music Tomorrow 2005 委嘱作品 東京オペラシティコンサートホールにて初演される。平成18年度 熊本大学学術出版助成 音楽之友社刊 平成21年 国際現代音楽協会「世界の音楽の日々」ISCM-WMD 2009年スウェーデン大会に入選し、再演される。 2) 國枝春恵作曲 クワイア・ソプラノ・オーケストラのための「セラフィム」 Seraphim for Violin and Orchestra 平成12年 東京文化会館コンサートホールにて初演される。平成28年度 熊本大学学術出版助成 音楽之友社刊 平成16年 国際現代音楽協会「アジア作曲家同盟」ISCM-AOL 2004年イスラエル大会に入選し、再演される。 3) 國枝春恵 ソプラノとハーブのための「セレナーデ」 Serenade for Soprano and Harp 平成12年 国際現代音楽協会「世界の音楽の日々」ISCM-WMD 2000年ルクセンブルグ大会に入選し、再演される。（國枝）	SS	S	本研究発表が国際的に行われた「国際現代音楽協会ISOMI」、1922年ザルツブルクで創設された現代音楽の国際的機関であり、現在、世界中の50以上の支部が加盟している。ISCMでは毎年、一支部が主催となり（世界音楽の日々（World Music Days））音楽祭を開催しており、同音楽祭は、主催国がテーマを自由に設定し、プログラム作品を世界から公募して決定。また現代音楽の情報交換等も行っている。80年以上にも及ぶ歴史を持ち、著名な現代作曲家のほとんどが、この音楽祭で作品が上演されている。日本現代音楽協会（HPより）2018年北京大会では日本人2名が入選、「花に111」は、音楽家クロージック・コンサートに於いて、世界的な音楽家を輩出している北京中央音楽院のオペラコンサートホールで再演され好評を博した。在中国大使館広報部、北京地方紙等に記事、写真が掲載され、動画も公開されている。	なし	なし
4	6803	基礎生物学	【テーマ】ヤツメウナギのバリウムに曝される哺乳類の運動皮質下行性投射のプロトタイプ 【要旨】ヤツメウナギの脳幹脊髄で生成される眼球運動、頭部運動、ロコモーションが、バリウム（哺乳類の大脳皮質に相当）から橋核・脳幹網様体への下行性投射により制御されることを明らかにした。5歳年にわたる脊椎動物の進化過程において、運動皮質下行性投射系の構造と機能が保持されてきたことを示した。	1) Ocaña FM, Suryanarayana SM, Saitoh K, Kardamakias AA, Capantini L, Robertson B, Grillner S: The lamprey pallium provides a blueprint of the mammalian motor projections from cortex. Current Biology, 25: 413-423, 2015（斉藤）	SS		論文1)のIF: 9.251 (S基準)かつ 引用回数27 (2020, Web of Science)による。2018.10.9現在)よりSの基準を満たす(タイプB)。	なし	なし
5	3003	芸術一般	国立療養所菊池恵楓園とのプロジェクト 入所者の2人の手型をブロンズにして来園者が触れるようにしタイトルを《生きた軌跡》と名付け、設置された。また、その形をもとに新たに高さ90cmとなるモニュメント《明日に生きる》も制作し共に設置された。なお、その時の型取り等の様子や除幕式が報道された。	① 《生きた軌跡》制作中の様子が8月に、熊日、読売、朝日、西日本等新聞各社により大きく報道された。 ② 《生きた軌跡》制作中の様子および《明日に生きる》も加えた除幕式の様子がミニ番組としてKKTテレビにより11月に報道された。 ③ 《生きた軌跡》《明日に生きる》の除幕式が、11/2に熊日、読売、朝日、西日本等新聞各社により新聞掲載され、KKTテレビおよびNHKテレビの報道番組で紹介された。（縮方）	SS		① 《生きた軌跡》制作中の様子が8月に、熊日、読売、朝日、西日本等新聞各社により大きく報道された。② 《生きた軌跡》制作中の様子および《明日に生きる》も加えた除幕式の様子がミニ番組としてKKTテレビにより11月に報道された。③ 《生きた軌跡》《明日に生きる》の除幕式が、11/2に熊日、読売、朝日、西日本等新聞各社により新聞掲載され、KKTテレビおよびNHKテレビの報道番組で紹介された。また、制作した2つの彫刻は恵楓園の広報的役割も果たし、広報誌「菊池野」掲載されると共に、恵楓園が中学校等への普及活動の折にも活用された。かつその成果は熊本大学としても認められ、本プロジェクトに参加した学生2名は学長より「学生表彰」の栄誉を授けられた。	なし	なし

業績番号	編目番号	編目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等）【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会的意義」の双方の意義を有する場合は、500字以内】	連携して進化した研究業績番号	共同利用等
6	3003	芸術一般	彫刻における人体表現の研究 常日頃の制作研究である。例年3月の白日会展、4月の日彫会展、11月の日展に出品している。その成果が各団体より高く評価された。	① 平成28年度は、日彫会展で「緑炎」が「新人賞」を受賞するとともに、「正会員推奨」となった。また、日展に続き白日会展でもこれまでの制作の技術が高く評価され「審査員」に選出された。 ② 平成29年度は、日展でその業績が認められ「日展会員」の称号が授与された。また、白日会展でも作品が高く評価され、「夢炎」が白日会彫刻会部門の最高賞である「吉田賞」を授与された。（緒方）	SS		① 平成28年度は、日彫会展で「緑炎」が「新人賞」を受賞するとともに、「正会員推奨」となった。また、日展に続き白日会展でもこれまでの制作の技術が高く評価され「審査員」に選出された。② 平成29年度は、日展でその業績が認められ「日展会員」の称号が授与された。また、白日会展でも作品が高く評価され、「夢炎」が白日会彫刻会部門の最高賞である「吉田賞」を授与された。以上の受賞等は特筆されることで、平成28年から29年にかけての彫刻制作発表による成果は群を抜くと思われる。また、評価年度を越えるが平成30年11月には五名高校同窓会より依頼を受け、熊大に寄付金をもらった上で、次年度のNHK大河ドラマ「いだてん」の主人公でもある金栗四三のブロンズ像を制作し設置されることとなった。「金栗四三像」は新玉名駅に設置され、11月11日に除幕式を迎える。	なし	なし
7	3004	芸術一般	彫刻における人体表現の学生指導研究 学生に彫刻をどのように指導すればその成果が出るのかを研究してきた。結果、指導した学生たちは、熊本県にとどまらず全国でも有名な展覧会で高く評価され、受賞の栄誉を授与されるに至った。	① 熊本県美術協会における評価：平成26年度は彫刻部門最高賞である「協会賞」をはじめ、「文化協会賞」「奨励賞」。平成27年度は「奨励賞」（2名）および「努力賞」、平成28年度は地震のために中止となったが、つづく平成29年度は再び部門最高賞の「協会賞」そして「奨励賞」「努力賞」となるなど、のべ9名が受賞の栄誉に輝いた。 ② 日展における評価：日展は日本における最高とも言える展覧会で、指導者本人もこれまで幾度となく落選を経験するなど、その評価は厳しい。その中で平成28年度および29年度と連続で学部4年次から院生1年に続く成長の中で学生2名が2年連続での入選に輝いた。 ③ 白日会展における評価：白日会は写実を中心とした展覧会であるが、平成28年度に2名、平成29年度に1名のそれぞれが「一般佳作賞」に輝いた。（緒方）	SS		① 熊本県美術協会における評価：平成26年度は彫刻部門最高賞である「協会賞」をはじめ、「文化協会賞」「奨励賞」。平成27年度は「奨励賞」（2名）および「努力賞」、平成28年度は地震のために中止となったが、つづく平成29年度は再び部門最高賞の「協会賞」そして「奨励賞」「努力賞」となるなど、のべ9名が受賞の栄誉に輝いた。② 日展における評価：日展は日本における最高とも言える展覧会で、指導者本人もこれまで幾度となく落選を経験するなど、その評価は厳しい。その中で平成28年度および29年度と連続で学部4年次から院生1年に続く成長の中で学生2名が2年連続での入選に輝いた。③ 白日会展における評価：白日会は写実を中心とした展覧会であるが、平成28年度に2名、平成29年度に1名のそれぞれが「一般佳作賞」に輝いた。以上、指導研究の成果として学生たちは各展覧会団体より高い評価を受ける実力を付け、その内容は、各新聞報道および熊大ホームページにより紹介されるに至った。	なし	なし
8	4705	数学基礎・応用	Constructions of strongly regular Cayley graphs and skew Hadamard difference sets from cyclotomic classes (強正則ケーリーグラフおよび歪アダマール差集合の円分類を用いた構成について) 本研究では、先行研究において散在的に存在が知られていた強正則グラフや歪アダマール差集合の例の一般化に取り組んだ。特に、指数2型のガウス和の計算を応用して、円分類を用いた新たな組合せ的構成法を見出すことにより、既存の例の一般化に成功し、強正則グラフの新たな無限系列を発見した。また、平方剰余型差集合とは部分的に非同値な歪アダマール差集合の新たな構成法を与えることに成功した。	Tao Feng, Koji Momihara, Qing Xiang, Constructions of strongly regular Cayley graphs and skew Hadamard difference sets from cyclotomic classes, Combinatorica, 35, 413-434, 2015. (翻訳)	SS		当該研究分野のトップジャーナルの一つである国際学術誌「Combinatorica」(Impact Factor1.406)へ論文を投稿し、採択・掲載された。また、この研究結果に基づき、International Workshop on Algebraic Combinatorics at Zhejiang University(2015)で招待講演「Skew Hadamard difference sets: Constructions and Inequivalence」を行った。	なし	なし
9	3001	芸術諸学	18世紀ナポリの劇場、音楽研究 チマローザのオペラ楽譜クリティカルエディション楽譜において注11、山田の基礎研究が引用されている Domenico Cimarosa, L'infederta' fedele, Edited by Ethan Haimo, A-R Edition, Middleton, 2012, 2vols	①アヴェリーノ音楽院主催国際研究大会「封建社会の黄昏時の喜劇と音楽、チマローザ、ハイゼッロらを中心に Comedia e musica al tramonto dell' Ancien Regime: Cimarosa, Paisiello, e i maestri europei」招待講演 (2016・11・26) ②アヴェルサ市主催、チマローザ博物館オープニングにおいて招待記念講演 (2018・3・16) ③マテラ音楽院—マテラ市主催、ドゥーニフェスティバル 招待講演 (2018・6・10) 31年度、EJ文化首都に選ばれたイタリア・マテラにおいて、同地出身の作曲家ドゥーニに関する大規模な国際シンポジウム、イベントを行うが、山田はイタリア劇学術・企画委員として選ばれたシンポジウムの企画を行う	SS		イタリアの新聞、ネットニュースなどに研究の紹介とともに記事として取り上げられている。バジリカータ州、マテラ市、マテラ音楽院、バジリカータ大学マテラ校より、江戸期出島のドゥーニのオペラ上演研究に関するシンポジウムセッションに関わる費用を負担してもらった予定（31年夏予定）	なし	なし
10	1060	美術史関連	「日本の篆刻家研究」 山田寒山・正平父子を中心に、日本の篆刻家について著者の40年に亘る研究成果を凝めた力作。篆刻に関する資料文献の精査、関係者へのインタビュー等を通して、さまざまな領域から印人たちの本質に迫っている。今後この分野の研究に欠かせない一書といえる。	単著『日本篆刻家研究—山田寒山・正平を中心として—』（照日出版、平成29年（2017）3月）として出版した。（神野）	S		①学術誌『書論』（第44号）に書評として、取り上げられ、本著の学術的価値が高く評価された。 ②書道美術新聞（第101号、美術新聞社、2017年6月15日）に取り上げられ、同書の紹介とともに、学術的価値が評価された。 ③篆刻専門誌『篆刻』に取り上げられ紹介、評価された。 ④書道雑誌『墨』に取り上げられ紹介・評価された。 日本における印学の研究、印章や篆刻そして印人や印語の、広い視野に立った体系的な研究は殆どなされていない。本研究は、日本の印章や篆刻の歴史的、文化的な解明を目的としており、総合的には日本の印学の体系化を目指したものである。素証的にまた総合的に、独自の研究方法による成果の発表であり、大いに意義のある研究と言える。本研究は、学術上、学問分野の研究としては、同分野で代表するもので、書学・書道史のみならず、美学・美術史、歴史・考古学に多大な効果を及ぼすことができる。	なし	なし

業績番号	編目番号	編目名	研究テーマ及び要旨(200字以内)	代表的な研究成果(最大3つまで)	学術的意義	社会的意義	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	連携して進めた研究業績番号	共同利用等
11	1060	美術史関連	筆者が40年に亘って、研究してきた、書写・書道教育に関連する総合的研究である。論文11本、研究ノート5本からなる研究書である。主な学術論文として下記がある。 第四章 書写書道教育試論—生涯学習の視点に立った書写書道教育の在り方— 第七章 書写書道教科書に関する基礎的研究—京都市学校歴史博物館の取り組みと所蔵品を中心に— 第一〇章 高等学校芸術科書道における鑑賞に関する地域教材を使用している実践的研究	単著 『書写書道教育論考』(平成27年(2015)3月、創想舎出版)として出版した。 (神野)	S		①書道美術新聞(第1101号、美術新聞社、2017年6月15日)に取り上げられ、同書の紹介とともに、学術的価値が評価された。 ②書道雑誌『墨』に取り上げられ紹介され、評価された。 ③日本で最も権威ある書写書道教育学会で、「書写書道教科書に関する基礎的研究—京都市学校歴史博物館の取り組みと所蔵品を中心に—」との口頭発表し、同学会会長久米公先生から、「優れた内容の研究である。」と評価され、学術雑誌に論文が掲載された。 ④元文部省教科調査官・元群馬大学教授・元佛光大学教授加藤達成先生から、同著序文において、「書写書道教育の、大光の照明」とのタイトルで、「本書の刊行は、書写書道教育の研究者のみならず、書写書道教育に係わる者にとって時宜を得た福音となり、教材となるであろう。」と評価された。	なし	なし
12	3003	芸術一般	壁画制作(台湾 南栄科技大学壁画 熊本大学附属特別支援学校体育館、および熊本地震震災ビル壁画制作) 台湾 南栄科技大学応用日本語学科からの依頼によりシンボル壁画制作(縦2.5m×横1.5m)を行った。また、熊本大学教育学部附属特別支援学校の依頼により、学生と特別支援学校の児童生徒と教員によって壁画制作を行った。縦5m×横21mの壁画に特別支援学校の児童生徒の作品をモチーフとした絵を描いた。また、震災で復興が望まれる熊本市中心街のビルに縦5.6m×横3m×2枚の壁画を描く制作・指導を行った。	①壁画(熊本大学附属特別支援学校体育館:平成27年11月完成) ②壁画(帯屋ビル壁画 平成28年8月完成) ③壁画(台湾 南栄科技大学応用日本語学科壁画 平成28年8月完成) (松永)	S		壁画制作による社会貢献を次のことを根拠とする。 ①台湾 南栄科技大学より感謝状 授与 ②新聞報道(「2017年11月3日 日経新聞 H28年8月19日 日経新聞」)TV放送 本取り組みは壁画の社会を市民や国際交流に生かす研究の一環として社会貢献活動として実践したものである。研究内容は、「(2016)、屋外壁画制作の研究—附属特別支援学校における試み—、熊本大学教育学部紀要、第65号」および「(2017)、屋外壁画制作の研究—熊本地震復興制作—、熊本大学教育学部紀要、第66号。」に纏められ発表されている。作品は市民に開放されて継続公開展示中である。	なし	なし
13	3003	芸術一般	絵画制作「鳳凰花舞園—resurrection(復活)—」の制作 本絵画作品は油彩画で、復活をイメージする花と蜂がダイナミックに舞う様子を作品化している。熊本地震を受け、また様々な苦境や困難からの復活を象徴した作品である。構成・色彩に大胆さを取り入れ図像化した作品である。大きさは、F150号(227.3×181.8cm)である。平成28年10月に出品し第70回記念二紀展で宮本賞受賞を受賞した。	①第70回記念二紀展宮本賞受賞表彰 ②全国美術館巡回展示が行われた(国立新美術館、愛知県美術館、京都市美術館、広島県立美術館、大分県立美術館) ③熊日新聞(2016.10.26掲載) (松永)	S		本研究による制作の判断根拠 平成28年10月に第70回記念二紀展で宮本賞受賞を受賞した。二紀展は日本における絵画展の雄に挙げられる。戦前の1914年文展から分離設立した二紀展の流れを汲み、戦後新しく二紀展が始まったもので、宮本三郎等によって設立された。設立委員でもある宮本三郎を顕彰して創設された賞であり、展示は全国区美術館を巡回し国立新美術館 愛知県美術館 京都市美術館 広島県立美術館 大分県立美術館にて展示が行われたものである。二紀展は1500人を超える芸術家が出品し審査が行われている。平成30年度は台湾にて海外展覧会が実施された国際的展覧会である。	なし	なし
14	3003	芸術一般	「蜂花舞園」 絵画作品制作 本絵画作品は油彩画で、花と蜂と人がダイナミックに舞う様子作品化している。自然界の中のものがあるものが生きる素樸らしさを表現した作品であり、舞う姿を表現している。構成・色彩に大胆さを取り入れ図像化した作品である。大きさは F50号(116.6×91cm)である。	①台湾 2014年10月 国際企画展 和風文化祭 招待出品 (台湾) ②台湾 2015年8月 成功大学 芸術センターにおける企画展出品「活着 生きること 松永拓己展」(台湾) ③台湾 2015年8月 台南市長から感謝状授与 (松永)	S		「蜂花舞園」絵画作品制作について次のことを根拠とする。 ①台湾 台南市長より感謝状 授与 ②台湾 台南市の収蔵(審査あり) ③台湾での企画展(審査あり)招待 和風文化祭および成功大学 本取り組みにおいて、絵画制作の研究が、国際貢献に役立ち、広く台湾市民の愛顧を賜ったものである。各種審査を経て、国際的に企画展が開催され、審査の後、台南市への収蔵が決まったものである。これにより台南市長 賴清徳氏より感謝状を賜った。	なし	なし
15	2401	身体教育学	歩行中の上肢と下肢の協調動作に関する研究 歩行中の上肢と下肢の律動的な動作は、脊髄内の神経回路により自動的に発現していると考えられている。本研究では、上肢と下肢の同時ベタリング運動をモデルとし、上肢および下肢の自動制御について検討した。その結果、下肢の自動制御は上肢のそれよりも強固に保たれることが明らかになった。	Sakamoto et al., Leg automaticity is stronger than arm automaticity during simultaneous arm and leg cycling. Neuroscience Letters, 564, 62-66, 2014 (坂本)	S		神経科学、理学療法学、リハビリテーション医学分野の論文に3回引用されている。また、論文閲覧および論文のダウンロード数は150回を超えている。IFは2.159である。	なし	なし
16	2401	身体教育学	上肢と下肢の律動的な協調動作に関する研究 日常生活では上肢と下肢を協調させて動かす場面が多い。本研究では、律動的な足指の運動が、手の指を支配する皮質脊髄路の興奮性に及ぼす影響について検討した。その結果、皮質脊髄路の興奮性は、足指の運動に依存して変化することが明らかになった。	Muraoka et al., Corticospinal excitability modulation in resting digit muscles during cyclical movement of the digits of the ipsilateral limb. Frontiers in Human Neuroscience, 9, 607, 2015 (坂本)	S		神経科学分野の論文に1回引用されている。また、論文閲覧および論文のダウンロード数は1,800回を超えている。IFは2.871である。	なし	なし
17	2401	身体教育学	運動の間接経路に関する研究 脳から運動指令を伝える経路には、大脳皮質運動野と脊髄運動ニューロンを直接結ぶ皮質脊髄路がある。この他に、サルなどでは、間接経路が存在することが知られているが、この経路が人でも存在するのかが明らかになっていない。本研究では、経路差磁気刺激、経路差電気刺激、運動単位法などを用いて、ヒトにおいても頭髄レベルに間接経路に関連する脊髄固有ニューロンが存在する可能性を示した。	Nakajima et al., Reassessment of non-monosynaptic excitation from the motor cortex to motoneurons in single motor units of the human biceps brachii. Frontiers in Human Neuroscience, 11, 19, 2017 (坂本)	S		神経科学、理学療法学、リハビリテーション医学分野の論文に5回引用されている。また、論文閲覧および論文のダウンロード数は1,800回を超えている。IFは2.871である。	なし	なし

業績番号	編目番号	編目名	研究テーマ及び要目【200年以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等）【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	連携して選定した研究業績番号	共同利用等
18		ジェンダー	高度経済成長期の日本社会において、家庭教育や生活改善普及事業をはじめとする家政学の実践が農村女性によってどのように受けとめられ、生活に取り込まれていったのかを文献資料やインタビュー調査から実証してきた。家庭教育史で取り上げられることが多かった家政学の実践を社会学・歴史学の視点から分析するとともに、家庭教育学では教える立場から議論がとられたが、受け手である生徒や農村女性の立場から教育内容を分析した点に学問的意義がある。	①増田仁『高度経済成長期における家事労働者形成過程の再検討—家政学的知と実践の社会学的研究に向けて—』風間書房、2014年 ②増田仁「家庭教育のこれまで」中西雪夫ほか編『小学校家庭科の授業をつくる』学術図書出版社、2017年 pp. 20-27 ③増田仁「高度経済成長期における農村生活の「合理化」過程とその帰結—家庭教育と生活改善普及事業を焦点に—」『熊本大学教育学部紀要』2017年 pp. 373-380 (増田)	S		教育社会学の日本最大の権威をもつ学会誌である『教育社会学研究』に東京大学教授の佐藤氏より女性の労働を賃金労働・家事労働のみならず産産労働も含めて分析した点は画期的であるとの書評が掲載された。また家庭教育学の日本最大権威をもつ『日本家庭教育学会誌』にも書評が掲載された。2015年度国立大学法人熊本大学研究業績表彰を受けた。朝日新聞にも本書の広告が掲載された。この業績が評価されて2016年、科研費基盤C「サークル活動とジェンダーの戦後史」の獲得につながった。また文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に研究成果が掲載され、インターネット上で多くの閲覧がなされている。2015年11月栃木県のさくら市ミュージアムにて講演を行った。	なし	なし
19		社会学	戦後日本における乳製品の普及過程を学校給食に焦点を当てながら、当時の社会的状況を踏まえながら分析した。特に生徒だった人々にインタビューを行い、新しい食文化をどのように受け止め、生活に取り入れていったのかを実証的に明らかにした。	増田仁「戦後日本における乳製品の普及過程に関する社会学的分析—教育現場から家庭・地域へ介入する食教育の再検討—」『平成24年度 乳の社会文化学術研究 研究報告書』乳の社会文化ネットワーク一般社団法人ミルク、2014年、176-198頁 (増田)	S		乳の社会文化ネットワーク一般社団法人ミルクより研究助成を受けた。研究成果発表会において乳製品普及過程を学校現場、家庭・地域まで視野に入れて実証的に分析したとして評価された。	なし	なし
20		社会学	東日本大震災以降の子育てに焦点を当てながら、どのように地域社会のネットワークが（再）編成されていったのかについて、熊本への避難者や会津若松に役場ごと避難した大熊町の人々へのインタビュー調査から実証を行った。	増田仁「東日本大震災以降の子育てネットワークの形成過程—子育ての「現在」を問い直す—」全労災協会公募研究シリーズ43 2015年、pp. 1-29 (増田)	S		全労災協会から研究助成を受けた。	なし	なし
21	10020	教育心理学	効果的にほめが機能することに寄与する、ほめ手・ほめ手の受け手の認知特性についての研究 本研究は、ほめることが動機づけに対して効果的でない場合に着目し、なぜ効果的でないのかについて、ほめるスキルの問題ではなく、ほめる側・ほめられる側が持つほめに関する認知的枠組みに焦点を当てて説明しようとするものである。まず、ほめに関する認知的枠組みを「ほめへの態度」として概念化し、個人の特徴を測定する尺度を開発した。また発達段階ごとの「ほめへの態度」の特徴を明らかにすることで、発達段階に配慮したほめの用い方についての示唆を得た。	①高崎文子（2015）. ほめへの態度尺度の作成、ソーシャルモチベーション研究、第8巻、50-64。 ②高崎文子（2018）. 「ほめへの態度」の発達的変化とその関連要因の検討、発達心理学研究、第29巻、13-21。（高崎）	S		①は動機づけ研究領域の学術誌に掲載された論文であり、本研究テーマにおいて重要な概念である「ほめへの態度」を測定する尺度開発について報告した論文である。②は「ほめへの態度尺度」の妥当性の検証も兼ねて、幅広い発達段階を対象にデータ収集と態度形成のモデル化を行ったものである。ほめの効果を、ほめ手・ほめ手の受け手の個人の認知特性によって説明しようとした研究はなく、その概念化や測定尺度の開発は今後の研究において意義が認められる。	なし	なし
22	7103	農芸化学	ヤスデ類の防御液成分の研究 ヤスデ類は、外敵に襲われた際に防御液を分泌する。生物としては珍しく、防御液の成分として青酸系物質を生成するグループがあり、基礎生物学的及び薬学への応用の両面で注目されている。①の論文は、マクラギヤスデにおいて、発生段階における防御液成分の違いを明らかにしたものである。このような視点での研究は過去に例がなく、注目されるものである。②の論文は、防御液成分として青酸系物質を生成するヤスデ類において、防御液成分として新たに過酸化水素の存在を示したものと注目される。③の論文は青酸系物質を生成するグループにおいて、その進化的な起源が単一であることを示したものである。このように系統的な観点から青酸系物質の起源を明らかにした研究は他になく、学術的価値の高いものである。	①Kawahara, Y., Ichiki Y., Morita M., Tanabe T., Asano Y. (2015) Chemical Polymorphism in Defense Secretions during Ontogenetic Development of the Millipede Niponia nodulosa. Journal of Chemical Ecology, 41, 15-21. ②Kawahara, Y., Yamaguchi, T., Ichiki, Y., Tanabe, T. & Asano, Y. (2017) Hydrogen peroxide as a new defensive compound in benzoyl cyanide producing polydesmid millipedes. The Science of Nature, 104: 19. DOI: 10.1007/s00114-017-1435-y ③Yamaguchi, T., Nuyfert A., Ina A., Tanabe T., and Asano Y. (2018) Hydroxynitrile lyases from cyanogenic millipedes: molecular cloning, heterologous expression, and whole-cell biocatalysis for the production of (R)-mandelonitrile. Scientific Reports, Article number: 3051. DOI:10.1038/s41598-018-20190-x (田辺)	S		掲載雑誌の2017年インパクトファクターは次の通り：①2.419、②1.789、③4.122。	なし	なし
23	4203	教科教育学	断続発光器を活用した色光による視覚表現の研究 本研究における色光表現は、長時間露光による光が移動した光跡を記録するライトパターンである。従来のライトパターンは、継続発光器による表現に留まっていたが、本研究においては断続発光による機器を設定して、新たな視覚造形を表現することができた。それは色再現のための平面の白色発光器であり、断続発光については走査線による手法を用いた。	①「The Universe of Moonlight 16-2」、(50cm×50cm)、2016英国国際招待作品展 (KSRDA LONDON INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION) (イギリス・ロンドン)、2016年6月～7月、作品集：p. 428掲載。(梅田)	S		①は、2016年度に2016英国国際招待作品展 (KSRDA LONDON INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION) としてレディング大学Main Gallery (イギリス・ロンドン) にて開催されたものである。日本からの出品については、一定の基準から10人以上と設定されている。今回、発光器における断続発光による新奇な視覚造形表現が評価されている。また、この国際招待作品展は東アジア及び欧州、北米などから17カ国が参加して開催されている。作品集は総ページ数は467頁であり、一人の作家に1頁をレアウトしている。なお2016年度においては、標題の「The Universe of Moonlight 16-2」のほか、「The Universe of Moonlight 15-2」(韓国)、「The Universe of Moonlight 16-4」(韓国)を春季・秋季の国際招待展として出品している。さらに「The Universe of Moonlight 16-1」(韓国)、「The Universe of Moonlight 17-1」(メキシコ)にて、国際招待展として出品している。	なし	なし

業績番号	編目番号	編目名	研究テーマ及び要旨【2020年以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等）【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	連携して進めた研究業績番号	共同利用等
24	4203	教科教育学	色彩自動変換装置の開発による色光表現の視覚的効果の研究 従来からのライトパターンの色彩表現では、色の選択や組み合わせが類似となったり不安定となったり、一定することはなかった。そのため本研究では、これらを改善するための色彩フィルターを採用して色彩が自動的に変換される装置を開発した。この装置によって、事前に色の選択や面積比などの配色方法を計画することができるものであり、それによって色光の視覚表現が飛躍的に向上することができた。	①「The Universe of Moonlight 16-3」、(50cm×50cm)、2016ポーランド国際招待作品展 (KSBD KATOWICE INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION)、シレジア大学 Galeria Teatru Korez (ポーランド)、2016年8月～9月、作品集：p. 319掲載。 (梅田)	S		①は、2016年度に2016ポーランド国際招待作品展 (KSBD KATOWICE INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION) としてシレジア大学 Galeria Teatru Korez (ポーランド) にて開催されたものである。日本からの出品については、一定の基準から10人以上と設定されている。今回は、カラーフィルターによる色彩の自動変換装置の開発による効果的な視覚表現が評価されている。また、今般の国際招待作品展は、韓国、アルメニア、ベルギー、ブラジル、エクアドル、ドイツ、イタリア、日本、マレーシア、メキシコ、ポーランド、スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、アメリカなどの16カ国が参加して開催されている。なお作品集は総ページ数は363頁であり、一人の作家に1頁をフルカラーにてレイアウトして掲載している。	なし	なし
25	4201	教科教育学	光学ファイナダーなどの撮影機器を活用した色光による視覚造形表現の研究 光の移動した光跡を記録するライトパターンは、暗室での光の軌跡をコントロールする必要がある。そのため本研究では、外付け光学ファイナダーの活用、色彩フィルターの透過光による適正露出値の設定、被写界深度や画角を考慮した映像機の実験・分析・考察を行った。その結果、色光による光跡を意図的、効果的に操作を行うことが可能となり、形態においても視覚的効果を向上することができた。	①「The Universe of Moonlight 16-5」、(50cm×50cm)、2016マレーシア国際招待作品展 (KSBD KUALA LUMPUR INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION)、クアラルンプール大学UM gallery (マレーシア・クアラルンプール)、2016年12月、作品集：p. 303掲載。 (梅田)	S		①は、2016年度に2016マレーシア国際招待作品展 (KSBD KUALA LUMPUR INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION) としてクアラルンプール大学UM gallery (マレーシア・クアラルンプール) にて開催されたものである。日本からの出品は、一定の基準により10人以上と規定されている。今回は、色光の基盤となる形態表現に関して各種の光学機器及び撮影機器を有効に活用して、豊かな視覚表現を行っていることが評価されている。また、今般の国際招待作品展は、韓国、オーストリア、中国、クロアチア、エクアドル、エジプト、フランス、ドイツ、日本、マレーシア、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ポーランド、スウェーデン、スイス、台湾、米国などの18カ国が参加して開催されている。なお作品集は総ページ数は351頁であり、一人の作家に1頁をフルカラーにてレイアウトして掲載している。	なし	なし
26	4203	教科教育学	断続発光による色光を造形素材としたリズム表現の研究 本研究におけるリズム表現とは、連続する色光の変移による秩序を意味している。ここでは記録される形は動かないものであっても、連続また重複しながら断続される図形によって色光が変遷しながら視覚的なリズムを表現することができた。これは、色と形と光とその動きによる新たな視覚造形としての表現である。また色光を構成する配置や方向によって、新奇な独自のリズム表現を造形化することができた。	①「The Universe of Moonlight 17-4」、(50cm×50cm)、2017ウェリントン国際招待作品展 (KSBD WELLINGTON INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION)、マッセイ大学 (ニュージーランド：ウェリントン)、2017年6月、作品集：p. 381掲載。 (梅田)	S		①は、2017年度に2017ウェリントン国際招待作品展 (KSBD WELLINGTON INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION) としてマッセイ大学 (ニュージーランド：ウェリントン) にて開催されたものである。日本からの出品については、一定の基準から10人以上と設定されている。今回は、断続発光の色光を駆使した視覚的なリズム表現が評価されている。また、この国際招待作品展は東アジアや欧米、中東など18カ国が参加して開催されている。作品集は総ページ数は419頁であり、一人の作家に1頁をレイアウトしている。なお2017年度においては、標題の「The Universe of Moonlight 17-4」のほか、「The Universe of Moonlight 17-2」(韓国)、「The Universe of Moonlight 17-5」(韓国) にて春季・秋季の国際招待展として出品している。さらに「The Universe of Moonlight 17-3」(韓国)、「The Universe of Moonlight 17-6」(中国)、「The Universe of Moonlight 18-1」(スイス) にて、国際招待展として出品している。	なし	なし
27	4203	教科教育学	断続発光による色光を造形素材としたレピテーション表現の研究 本研究におけるレピテーション表現とは、同一の単位を複数個にわたり配列することである。単純な単位であっても反復しながら繰り返して配置することによって、包括性を持った一つの統合的表現となる。纏まった秩序感と同時に多彩な容容を組み合わせることで、美的な表現を創作することができた。そして、単位の反復や連続による新しい運動感によるレピテーション表現を用いた視覚造形を可能とした。	①「The Universe of Moonlight 18-3」、(50cm×50cm)、2018オタワ国際招待作品展 (KSBD OTTAWA INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION)、カルトン大学PIT Gallery (カナダ：オタワ)、2018年7月、作品集：p. 402掲載。 (梅田)	S		①は、2018年度前期に2018オタワ国際招待作品展 (KSBD OTTAWA INTERNATIONAL INVITATIONAL EXHIBITION) としてカルトン大学PIT Gallery (カナダ：オタワ) にて開催されたものである。日本からの出品については、一定の基準から10人以上と設定されている。今回は、断続発光の色光を活用したレピテーション表現が評価されている。また、この国際招待作品展は東アジアや欧米、中東などの11カ国が参加して開催されている。作品集は総ページ数は434頁であり、一人の作家に1頁をレイアウトしている。なお2018年度前期においては、標題の「The Universe of Moonlight 18-3」のほか、「The Universe of Moonlight 18-2」(韓国) にて春季・国際招待展として出品している。さらに「The Universe of Moonlight 18-4」(ロシア) にて、国際招待展として出品している。	なし	なし
28	26020 (5902)	無機材料および物性関連 (無機材料・物性)	白色LED用赤色蛍光体の研究・開発 白色LEDに用いる赤色蛍光体を開発した。マトリクス効果に基づいた組成設計により、色度が良好なMn ⁴⁺ イオンCaAl ₁₁ O ₁₉ 赤色蛍光体を発出し、CaF ₂ 、MgF ₂ を共添加することによってラクラクと電荷補償の相乗効果により、蛍光強度を約2倍向上させるに成功した。	Fluorescence properties of Mn ⁴⁺ in CaAl ₁₁ O ₁₉ compounds as red-emitting phosphor for white LED Murata, T.; Tanoue, T.; Iwasaki, M.; Morinaga, K.; Hase, T. JOURNAL OF LUMINESCENCE 巻: 114 号: 3-4 ページ: 207-212 発行: SEP 2005 (村田)	S		本論文は、Journal Citation Reportsにおける2017年のインパクトファクターが2.732 (直近5年では2.577) の雑誌に掲載され、過去5年の被引用回数が100回 (H30: 18, H29: 20, H28: 30, H27: 15, H26: 17) と高く評価されている。	なし	なし
29	6803	基礎生物学	【テーマ】 視覚的選択に関わる視覚微小神経回路【要旨】 複数の感覚入力に状況に適したひとつの運動出力に統合される神経機構を明らかにした。ヤツクマガキによる新しいin vitro標本を開発し、2方向からの網膜への光刺激に対する、視覚深層の神経制御ニューロンの活動をホールセルパッチクランプ法で記録した。視覚のGABA作動性介在ニューロンによる視覚野間の競争的抑制作用と、網膜からの局所的興奮作用が視覚制御に重要であることを示した。	2) Kardamakias AA, Saitoh K, Grillner S: Tectal microcircuit generating visual selection commands on gaze-controlling neurons, Proceedings of the National Academy of Sciences, 112: E1956-E1965, 2015 (齊藤)	S		論文2)のIF: 9.5041 (Q5, S基準, 被引用数10) よりSの基準を満たす (タイプD)。	なし	なし

業績番号	編目番号	編目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学 術 的 意 義	社 会 的 意 義	判断根拠（第三者による評価結果や客観的指標等） 【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	連携して 認定した 研究業績 番号	共 同 利 用 等
30	4201	林産教育	森林親和運動としての木育に関する研究 平成19年に森林経営基本計画に盛り込まれた木育を、森林保全に関する社会運動の一つとして捉え、その歴史的な発生経緯と国内で展開されている活動の分析を行った。これまで展開された森林保全の市民運動や住民運動との違いを明らかにし、社会運動として成就するための要素について明らかにした。	①田口浩継（2017）, 森林親和運動としての木育 ―ものづくりの復権と森林化社会の実現―, 九州大学出版	S		①林業経済研究所の月刊誌『林業経済』8月号（2018）に書評が掲載され、その中で高い評価を得た。②日本木材学会居住性研究会・日本生理人類学会 Wood/Human Relations 研究部会（招待講演, 東京大学）において招待講演を行った。③熊本県での木育活動が「ウッドデザイン賞（林野庁）」において、平成27年度に「ソーシャルデザイン部門」、平成28年度に「ハートフルデザイン部門」で入賞を果たした。	なし	なし